としょかん宇治

No. 19
1989年11月1日 発行
宇治市中央図書館
宇治市文化センター内
〒611
宇治市折居台1丁目1番地
電話 (20) 1511

開館して五年

館長　五十嵐　一郎

きたる十一月三日は中央図書館開館五周年記念日です。開館当初六万冊の蔵書は倍増し、貸出も年々四十万冊を越え、視覚障害者サービスの開始や行政資料コーナの設置など、いろいろの面で着実に前進してきました。

特に図書館の命といえる蔵書は年々充実し、今では、書架スペースがなくなって、新しい本をいれるのに苦労するほどです。利用者からも蔵書が充実してきましたねといわれるようになってきました。

開館五周年目の今年は、三つの大きな仕事に取組んでいます。一つは移動図書館車「そよかぜ号」の更新です。八月四日から前車よりいろいろな面で勝れている新車（上の写真）になりました。市民の走る書斎として一層よいサービスが出来ます。

二つ目は移動図書館のコンピュータ化です。現在準備中ですが、これにより中央図書館と移動図書館の資料提供サービスが一段と向上します。

三つ目はカセットブック（朗読テープ）の導入です。視覚障害者だけでなく一般の方々にも利用してもらえます。今年度は七百巻ほど導入の予定です。

この五年間、図書館は一歩一歩着実に充実してきました。まだ解決しなければならない課題もありますが、今後とも、いつでも・どこでも誰れでも利用できる図書館作りをめざして頑張ります。

宇治市文化センター開館5周年記念文化講演会（入場無料）

文化センター開館5周年を記念して、ノーベル化学賞受賞の、福井謙一氏を講師とした文化講演会を催します。先生の歩んでこられた道、科学技術の進歩と人間のかかわり、生涯学習の必要性など、生きていく上で学ぶことがいかに大切であるかについて話されます。ご期待下さい。

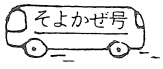
- ▣ 日　時　　12月2日（土）　午後2時〜3時30分
- ▣ 場　所　　宇治市文化センター　大ホール
- ▣ テーマ　　「学ぶこと・生きること」
- ▣ 講　師　　福　井　謙　一　氏（基礎化学研究所長・ノーベル化学賞受賞）

略　歴　　1918年　奈良県生まれ、京都大学卒
1981年度　ノーベル化学賞を日本人としてはじめて受賞。
同年文化勲章。

主　催　　宇治市・宇治市教育委員会・(財)宇治市文化センター

※ お問いあわせは、中央図書館（TEL20−1511）まで

はしれ！そよかぜ号



八月から、「そよかぜ号」が、新しいバスに変わりました。

新しい「そよかぜ三世号」は、クリーム色と宇治のシンボルお茶をあらわす明るいグリーン色と、前の「そよかぜ二世号」と同じ色調ですが、ひとまわり大きくなって、すっきりとしたボディが特徴です。

仕事始めは、八月四日。午前中に、市役所庁舎前で「お披露目式」をしたあと、午後に「木幡駐車場」に向かいました。

京阪線、木幡駅にほど近い「木幡駐車場は、年間に約九〇〇〇冊もの本を貸し出す、利用者ナンバーワンの駐車場です。

真夏の日射しの中を次々にやってこられる利用者から

「バスが新しくなって…。きれいですねて。」

「明かるいですね」

「まあ、涼しい！」

「本も新しくなったわ」

と、うれしい感想をきかせてもらって、職員の胸もはずみます。

「そよかぜ三世号」には、本も五〇〇冊多く、二三〇〇冊も積みこめるようになり、天井に設けた窓からさしこむ光で、新車にあわせて用意した沢山の新刊書は勿論のこと、どの本も、晴れやかに、ピカピカと輝いてみえます。

夏休みのことで、子どもたちの利用も多く、車内はたちまち一杯に…。でも、通路が広くなったので、以前よりはゆとりをもって本を選んでおられる様子に、ホッとします。

またたく間に時が過ぎて、本棚もガラッとしたころ、初仕事も無事に終わりました。

さて、この「そよかぜ号」は今回で三台目ですが、バスによる巡回図書貸出が始まったのは、昭和四十四年のことでした。

当時は、宇治川のほとりの宇治市民会館内に、中央図書館の前身「宇治市民図書室」がありましたが、遠い地域に住む方々から、「身近な場所で本を借りたい。ぜひとも移動図書館を!!」という要望が相つぎ、実現したのが「そよかぜ一世号」でした。

それから、二十年。本を心待ちにして下さる方々へ、本を届けるため、「そよかぜ号」は走り続けてきたのです。

フレッシュ「そよかぜ号」を、街角の図書館として、これからもお気軽にご利用ください。

図書館へようこそ

利用者にインタビュー

第 8 回　福永高雄さん

今回の『図書館へようこそ』は広野町桐生谷にお住まいの福永高雄さん（六十歳）にお聞きしました。

――図書館をよく利用されますか。

週に一度、土・日いづれかは必ず利用しています。

――利用されての感想は。

近年、蔵書の充実振りには感心しています。いつ来館しても最近は成人の利用者が多く、市民の情報知識センターとして定着している感じがします。

――予約・リクエストは利用されていますか。

希望図書を他館より借り出してもらったりして、その積極的な対応措置には感謝しています。予約リクエストの電話連絡は、核家族で昼間不在が多いので受益者負担で葉書連絡を希望します。リクエストについては、〃NO〃の場合の回答を確実にして戴きたいと思います。

――図書館の蔵書について

限られた予算で効果性のある蔵書選定は大変と思います。公共図書館の蔵書には、利用者のニーズによるものと、特定ニーズによらなく漠然といい図書はないかの期待性によるものとの二面性があります。初歩的なものは既に完備していますが、今一歩やや専門的図書を期待しています。

――その他の要望があれば。

書架の蔵書を見て貸出図書を選ぶ場合が多いので、分類を明確にして戴きたく、内容同種傾向の本は同分類にて同じ書架にしてほしい。

これからも図書館の意義や価値は、重要性を増していくでしょう。いつまでも利用者の心に感銘をあたえる蔵書をもつことが市立図書館の存在理由とも考え、期待するものです。

さんぽみち

「この本を読んで自分が感じたり、思ったことを書きなさい」学校の課題に読書感想文というものが、よく出されます。夏休み頃は、指定された本についての問い合わせが急増する時期です。全く本を読まない子供にとっては、それも読書の一つの契機になるかもしれません。

また、読書の感想文を書くことは文章表現力をつけるためにはよい方法だと思います。けれども、人それぞれに考え方や感じ方、あるいは興味をひく対象はさまざまであるケースが多いものです。その人が読みたい、と思う本を手にとり、じっくりと読んでみる。本当に感動する場合もあるでしょうし、「意外に失望した」ということになるかもしれません。でも、そうした経験が「よい本」を選ぶ目を養っていくものだと思うのです。

「読書を強制する」のではなく、自由に本を選んでほしい。それが、やがて読書の楽しみにつながってくるのではないでしょうか。

そのためには、多くの本が利用する人にとって、わかりやすく整理されて並べられていることが必要です。図書館ではNDC（日本十進分類法）にしたがって、（たとえば日本歴史の本なら二一〇、法律の本なら三二〇、というように）分類され、書架に配架されています。けれども、その中には、わかりにくい分類や一つのテーマとして一箇所に集めた方が選びやすい、ということも少なくありません。本を広く選んでいただくため、図書館では主題を決めて展示を行なったり、新しく入った本の案内を出したりして、本の情報が利用者の方の目にふれる機会をできるだけ多くするよう心がけています。

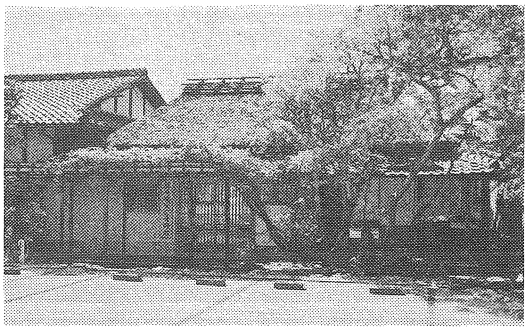
ところで、「本当に感動した場合には、言う言葉を失う」ということがよくいわれます。読書の場合でも、これにあてはまるケースがあると思います。自分が変わり、人生が変わる。そんな本との出会いの場となれるよう、努力したいと考えています。

郷土のはなし

「小堀遠州」と「朝日焼」

茶どころ宇治の景勝の地、朝日山の麗に位置する朝日焼の歴史は三百有余年に至っており、当代で十四代目を数えています。

慶長年間（一五九六―一六一四）に、初代陶作が創始したといわれ、正保年間（一六四四―一六四七）に、二代目陶作が、小堀遠州の指導をうけ、遠州好みの茶器を製作し基礎を築きました。



≪朝日焼窯芸資料館≫

小堀遠州は天正七年（一五七九）に近江で生まれ、書道・歌道・茶道を学び、禅に通じ、また公務としての建築・造園に秀れた才能を発揮した、当時一流の文化人であり、特に茶道芸術に力を注ぎました。茶道は、古田織部より伝受をうけ、のちに「綺麗さび」といわれる近世的美意識を確立しています。

小堀遠州が指導し、庇護した国焼として「遠州七窯」が有名です。これは豊前の上野、筑前の高取、近江の膳所、大和の赤膚と朝日焼。そして廃窯になった摂津高槻の古曾部焼、遠江の志戸呂焼の七窯をいいます。

遠州没後、遠州の茶友であり弟子でもあった淀藩主・永井尚政らの庇護を受けました。

千利休から織部、遠州と続く茶道の発展は目ざましく、宇治茶の広がりとともに、朝日焼もその名を高めました。江戸中期以後、一時衰退した時期もありましたが、今日までその伝統は多くの人々によって守りつかれ、宇治の代表的な名産となっています。

参考図書

※「カラー朝日焼―土は生きている」（松林美戸子／文　淡交社）

本をかりるには

―利用案内―

中央図書館

市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方ならどなたでもかりられます。

- 貸出は、**1人3冊、3週間です。**
- 開館時間は、**9時～17時です。**
- 休館日は、**毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。**

移動図書館

月に市内25カ所を巡回しています。

- 貸出は、**1世帯に20冊までです。**
- 次回巡回日に返却して下さい。
- 日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧下さい。

編集後記

◆いい季節となりました。塔の島をゆったりと歩き、朝霧橋を渡り川岸を上流へ歩いてみました。時折、車は通りますが、宇治橋付近の車の騒音も聞こえず川波のせせらぎの音が心地よく感じられます。

興聖寺や朝日焼といった古きよりの伝統も、この落ちついた環境に育くまれてきたのでしょうか。

◆多くの方に親しまれて、宇治市文化センターも開館五周年をむかえます。五周年記念として福井謙一さんの講演が行なわれます。ご期待下さい。